平成３０年２月１５日

上島町教育委員会
教育長　濱田　和保　様

上島町立弓削中学校
校長　田窪　鉄哉　印

平成２９年度　学校関係者評価報告書

１　開催日時　　平成３０年１月３１日（水）１４：００～１５：００
２　参 加 者　　委員６名、中学校教職員３名
３　協議内容　　評価結果・改善方策等、学校による説明についての意見交換および感想

（Ａ委員より）
○　資料中の「アンケート結果・分析」について、評価指標欄の書き方に気をつけるべき。アンケートの設問が直接書かれている。アンケート結果の評価についても、項目によっては対象による評価が分かれているものがあるが、それぞれ学校として指標ごとの評定や解釈を記入すべきである。また、アンケートによっては無回答者が多いものがあり、設問内容を分かりやすくするべきである。とくに教育目標についての質問は総合的に判断することなので、削除してよいと思う。
○　自由記述の回答の中には、学習指導に対する保護者の切実な思いが書かれている。また、学習に関する項目では保護者からの判断が厳しい。これらの意見を今後どのように生かしていくのだろうか。学力向上のための学校としての取り組み（各調査や学習タイム）が保護者には伝わっていないのではないか。自由記述の意見に対して、学校として具体的回答をすることが必要と思う。また、授業についてこられない生徒に対する指導改善を保護者は求めていると思う。職員研修や授業研究の回数などを知らせると分かりやすくなると思う。
（本校教務主任より）
○　学校としての取り組みは１１月半ば過ぎで、アンケートを実施したのが１２月前半であるため日が浅く、保護者に十分伝わっておらず、そのことが評価に表れたものと思う。授業改善については、どの教員も生徒の実態に合わせた教材研究をしているはずである。アンケート分析で興味深く感じたのは、授業を実際に受けている生徒が学校の姿勢に高評価を与えているにもかかわらず、保護者による評価が低いことである。これは、各テストに表れる結果の低さに対する評価であると思う。ただ、学力向上を目指すなら、学校での学習のみでは不十分であり、家庭学習の充実も必要である。テレビやゲームに費やす時間を減らし、家庭学習を確保するよう家庭に協力を求めていきたい。
（本校校長より）
○　１１月より、生活習慣調査を行っている。毎日、睡眠・ゲーム・学習にあてた時間を調べ、学校で毎日チェックしている。調べた結果について保護者にも毎月感想を記入してもらい、家庭学習状況の改善に努めている。宿題忘れをした生徒については、放課後残して指導したり、学習タイムで取り組ませたりしている。こうした活動を今後アピールしていくことも必要と考えている。
（本校教務主任より）
○　「６時間の睡眠時間確保」を目指す生活リズム調査で、生徒もテレビやゲームの時間を減らすことが必要であると、気づいてきた。これらの結果を「学校だより」や「学力向上だより」で毎月発信することも始めた。

（Ｂ委員より）

○　学校評価においては「結果」を表記するだけでなく、どのような改善がなされているかを知らせることも必要と思う。前年度の結果に基づいた重点目標の項目や、実際に何がなされたかを知りたいと思う。それに対する結果を載せることが本当の評価であると思う。弓削商船高専では、毎日したことを文書化して評価委員会に提出する作業を常に行っている。そうした作業を通して、具体的な改善策や学校の特長や特色が分かるのではと思う。

（Ａ委員より）

○　家庭での生活習慣や学習習慣を身に付けさせることは難しいことである。小学校でも取り組まなくてはいけない点である。現在、家庭学習ができていない児童に学級担任がどう関わっていくか、どう児童にやる気を持たせていくかということに留意している。家庭での学習習慣を見直す目的のもと「学習強調週間」を設けて取り組み、ホームページで保護者の感想を毎月紹介したところ、子どものことに着目する保護者が増えてきた。弓削小・生名小・弓削中の３校で今後も根気強く取り組んでいくことが必要と思う。

（Ｃ委員より）

○　学校評価をすることで、どういう取り組みを通してどう変容したかが表れないといけないと思う。弓削中では、学習タイムやサーキットトレーニング、生活リズム調査など様々な取り組みをしているが、保護者にそれらがどのように伝えていくことが難しいことが分かった。授業改善については、授業公開を毎日するしかないのかとも思った。弓削高の生徒は生活習慣や意欲が身に付いて努力をしており、それらは小学校・中学校での様々な学習活動の積み重ねが心の成長につながっているものと考えている。

（Ｄ委員より）

○　教職員の評価について、本校の教職員はへき地小規模校ながら献身的な教育実践を行っていると思う。昨年度のいじめの重大事案についても長時間をかけて「いじめ防止基本方針」を見直しに取り組んだ。全国で多数の同様の事案が発生する中で、５カ月で正常な学校生活を取り戻したのは数少ない状況である。そのため、項目７については教職員によるもっと高い評価があってもよかったと思う。

（Ｅ委員より）

○　学校評価の冊子作成はご苦労だったと思う。私が先生方に望むことは、子どもたちに人間の基本を教えてほしいということである。きちんとした挨拶と返事を身に付けさせることが大切である。相手に聞こえない挨拶や返事は挨拶・返事ではない。校長を務めた時期にこれらを言ってきたが、人間の基本であると思う。この地域の子どもたちは、そうした指導に応えられると思っている。また、子どもを育てるためには、学校と保護者が協力していくことが大切である。注文をつける保護者に対しては、穏やかに受け止めていくことが必要と思う。

（Ｆ委員より）

○　公民館長として学校評価委員を委嘱されてきたが、以前は公民館に児童・生徒・保護者や地域の方、先生方が来られて協力ができていた。現在、公民館は弓削に２カ所、高井神・魚島に各１カ所で、公民館活動が貸館事業となっている。資料にある通り、生徒の挨拶はよくできているし、悪い生徒も見られない状況である。PTA 会長・副会長や青年会長等を務めた中で、保護者に「保護者としての立場をわきまえて、保護者とは学校に協力する立場である。」と伝えてきた。そして、「自分の子どもをしっかりとしつけて、親から指導をしてください。」と話してきた。それで

正解だったと思うし、行事への保護者の参加も多かった。このように保護者の意識を変えないと、学校は大変だと思う。現在は共働きのため、各事業に参加することができなかったり、子どもの勉強を見たりすることができないかもしれないが、「親としての責任を逃れるな。」と言いたい。親の背中を見て子どもは育つわけで、学校はその補助的立場であることをしっかりと伝えていくことが必要である。学校は精一杯頑張っているので、教育委員会として有難く思っている。

（A委員より）

○　学校評価をする目的は、学校が今後、学校教育の指導改善に生かして質の向上・改善を図ることであり、教育委員会がそれに基づいて各施策に生かすためのものであるため、学校だけでなく町教委からの支援、予算的なものも含めて初めて成り立つものである。指摘のあった地域を挙げての人権教育の充実、家庭教育の充実が上島町の課題であるなら、教育委員会からの協力をお願いするものである。